

# アグリ **A G R I** ワーク **W O R K** ポイント **P O I N T**



農業経営支援課 石田哲也

## 令和2年産の概要

令和2年産は、ジャンボタニシの被害や7月以降の多雨、記録的な猛暑、ウンカによる坪枯れなど、稲作にとって非常に厳しい年となりました。特に8月の猛暑により心白粒・白未熟粒が多く、例年では発生が少なかつた中生・晩生品種などにも見受けられ、等級の格下げに繋がりました。

### 〈集荷量〉

1012t 目標対比81% (前年対比76%)

### 〈一等米比率〉

- コシヒカリ (早生) 19% (前年49%)
- きぬむすめ (中生) 60% (前年86%)
- あいちのかおり (晩生) 50% (前年67%)
- 全体 43% (前年63%)

※集荷量の内、コシヒカリが約29%、きぬむすめが15%、あいちのかおりが30%を占めています。

## 等級落ち理由トップ3

- 1位・心白粒・白未熟粒 60%  
↓出穂期の高温、地力および日照不足による生育後半の栄養不足、早刈り、倒伏など
- 2位・カメムシによる着色粒 28%  
↓農道や畦畔などの雑草、薬剤防除の不徹底、水田内のヒエ・ホタルイがカメムシを誘引
- 3位・胴割粒 5%  
↓刈取り前の早期落水、刈遅れ、乾燥機による急激乾燥及び過乾燥

## 今後の対策

今後もウンカの大発生や異常気象などが起こる可能性があります。事前の対策を万全に行い、良質な米の安定生産を目指しましょう。

### ○ウンカ対策

ウンカが多発してからの防除では効果が期待できないため、フルスロットル箱粒剤などの効果的な箱施用剤を使用しましょう。なお、長期間効果のある箱施用剤を使用しても8月以降の防除は必要です。早生は8月上旬、中生・晩生は8月中旬と9月上旬を目安に防除し、徹底的に発生を抑え込みましょう。

### ○高温・曇天に負けない土作り

水稲には、ケイ酸がとても重要なため、土壌改良材を必ず入れましょう。また、腐食や堆肥などで微量要素も取り入れ、地力を上げましょう。

### ○水管理の徹底

水稲は、生育時期によって水管理が違います。水が必要な時に入れ、いらないうきに切る。当たり前のことですが、難しいことでもあります。地域で協力し、徹底した水管理を行いましょう。